



シャックルのトップメーカー

ワイドシャックル

- ・軽い
- ・ワイヤーが傷みにくい
- ・安全性が高い
- ・1人作業が容易で作業効率が良い
- ・トータルコストが安くなる



JSW
(縦維スリング用
ジョイントシャックル)

関西工業株式会社

代表取締役 羽田 和弘

本社・工場 広島県福山市箕谷町399-35
TEL 084-954-2555 FAX 084-954-3533

http://www.kansai-shackle.co.jp



舷梯専門

設計から製作までさまざまな舷梯を
造船業界に納入しております。

三和鉄工株式会社

〒555-0001 大阪市西淀川区7丁目2番60号
TEL 06-6474-1031 FAX 06-6474-1032

[三和鉄工]
[検査]

品質・価格で業界各位の信頼を受けております。

中小型船尾装置のトップメーカー

特 許

No.1278466

TWシールスタン

省労・省エネの船尾管水密装置
運輸省認定 舶機第53号 NK 承認 No.83D101

現在50,000隻装着突破の実績

1. ファインセラミックノリッド及びカーボンを摺動
シール面に採用し優れたシール性能を発揮
2. 無抵抗シールのため燃費節約と船速がアップする
3. 保守点検の手間もかからない



TSS型

W

株式会社 高澤製作所

本社：工場 〒577-0827 大阪府守口市大船6丁目8-33 TEL 06-7299-1001 FAX 06-6712-6650
 船機営業所：小川営業所：東京営業所：大阪営業所：福岡営業所 <http://www.takazawa-ss.co.jp>




1944年7月20日、「海の記念日」が制定された。1876年明治天皇が東北巡幸から船で横浜に安着した日に由来する。海の日には全国各地でさまざまな行事が開催された。国民の祝日「海の日」を設けようと、国民運動が行われ、1996年から7月20日がのとなり、2003年には7月の第3曜日に改められた。「海恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」である海の日に向けて日本を取り巻く造船業界を取り上げる。



付加価値で差を
設計や設置機器改良

付加価値で差を

設計や設置機器改良

昨年11月、経済協力開発機構（OECD）は低環境負荷船舶の普及促進のため、燃費に優れたCO₂排出量の小さい船舶を対象に、国際的に定められた船舶の公的輸出金融の条件を緩和することで合意した。

今年6月に行われた会合では対象となる船舶について意見交換がされた。日本が強調するCO₂排出指標（エネルギー効率設計指標II EED I）と、欧州連合（EU）が強調する窒素酸化物（NO_x）と硫黄酸化物（SO_x）の排出量を条件に反映することと議論はまとまりつつある。今後、書面上で内容を詰めて、遅くとも11月の会合で、遅くとも12月の会合を目指す。

また、優遇条件については日本は最長償還期間を12年から18年に長期化し、最低頭金を20%から15%に減額することを意見している。償還期間の延長はこれまでに事例があり実現性は高いが、頭金の減額は前例がないため合意については不透明な状況だ。

今後、海上で活躍するエコシップは空気抵抗を

パブルによる摩托抵抗の低減など、効率的な運搬の実現に向けた研究を進める。そうして船舶の計画上でなく、大規模船舶に大量に設置された照明などの機器を省エネ製品に代替すれば、大きな省エネ効果がある。たゞ、ソーラパネルを載し、船内で発電した電気を蓄積し停泊中に使用するなど、クリーンエネルギーの利用も進んでくる。

エコシップの普及を進めるため、新たな規範が施行されていく。これを契機と捉え、船舶をげずに付加価値を加える性能の差を出す。

一方、船舶が活躍する海洋新産業の創世にも待が高まる。政府が策を進め、次期海洋基本画で、洋上風力発電や流発発電、波力発電など再生可能エネルギーなど十分な計算措置の実現が決まれば、船舶の活躍場は広がり、造船企業さまざまな企業に支援される。

船舶需要が増える環を自らつくる。日本の船舶企業は生き残りを受け、政府と連携して積極的に市場開拓を進める

エコシッぷに力
環境規制年々厳しく

船舶に対する環境規制は年々厳しくなっている。11年7月には国際海事機関（IMO）が国際海運における「酸化炭素（CO₂）排出規制を初めて導入するため、海洋汚染防止（MARPOL）」条約の一部改正が採択された。

13年に降に建造契約が結ばれる400総トン以上の国際航海を行う船舶に対し、CO₂排出性能の計算が義務付けられ、建造契約年に応じてCO₂排出基準の達成が要求される。

現在の平均CO₂排出量は15t/24時間あたりで、2024年には同20%以上、25年に降は同30%以上の効率改善が要求される。基準値を達成しない船舶は海運マーケットに投入される。

	現在	2012	2013-2014	将来
平均CO ₂ 排出量 (g/kWh)	10%	-10%	-18%	-30%

MAF

建設

減らすデザインや燃費

る。

企業にチャンスが訪

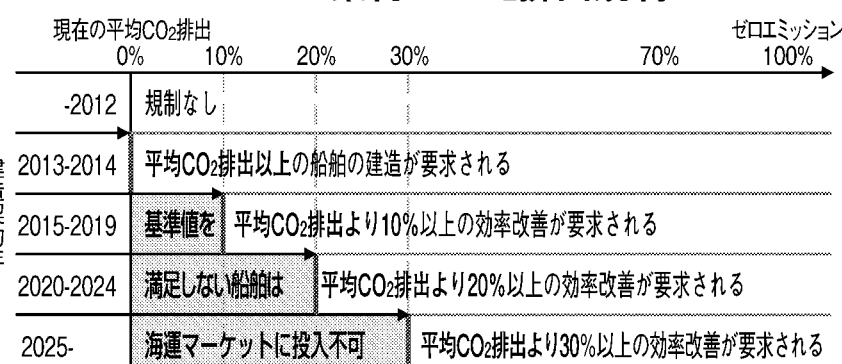
が不可能となる。

これまでは日本はCO₂排出規制対策の審議を導し、今回の改正案も本の提案がベースになっている。規制をクリアする船舶が必要不可欠にれば需要が拡大し、日企業にチャンスが訪

2015-2019	基準値を
2020-2024	満足しない
2025-	海運マケ

【参考】一般的なコンテナ船 (8000TEU)

OL条約のCO₂排出規制



【参考】一般的なコンテナ船（8000TEU）のCO₂排出量は19g/トンマイル。（燃料換算すると6g/トンマイル）（国土交通省の資料から作成）

※ 国際基準のアスベスト 8 種 (JIS 6種 + ウィンチャイト・リヒテライト)

を全く含有しない環境に優しいゼロアスガasket

※国際標準化機構 (ISO) はアスベスト検出方法について JIS 法を不採用。

製品の特徴

- ① シール性に優れる
- ② 耐熱性・耐圧性・耐久性に優れる
- ③ 面圧が強化され、クッション性が高い
- ④ JIS・ASME(JPI) 等に対応する規格品

製品の数量・形状・使用条件などによって、最適な組合せ・製造法が異なります。まずは一度ご相談下さい。

ゼロアス®メタルジャケットガasket
ナピ シリーズ

NAPI®

耐熱ガasketの最高峰

The highest peak of a heat-resistant gasket

NAPI-600 シリーズ
耐熱 600℃以上 抜群のシール性

NAPI-800 シリーズ
耐熱 800℃以上 超高温環境用

NAPI-800E シリーズ
耐熱 800℃以上 低価格

NAPI-816 シリーズ
耐熱 800℃以上 抜群の耐食性

NAPI-900 シリーズ
耐熱 900℃ 更なる超高温領域

NAPI-1200 シリーズ
耐熱 1200℃ ノンアスベストに最適

類似品にご注意下さい

使用されている産業分野

船舶関係

ディーゼルエンジン・内燃機関用

その他

火力・原子力発電設備用
自動車・二輪車エンジン等
石油精製・石油化学・製紙プラント用 など

旭プレス工業株式会社

〒532-0031 大阪市淀川区加島1丁目50番13号 TEL 06(6309)4861 FAX 06(6309)4863
 URL ▶ <http://www.asahipress.co.jp/> E-mail ▶ info@asahipress.co.jp